

「一日でも早く」実践

AMDA活動報告

救える命があれば

一日でも

□10□

菅波 茂



パキスタン地震

到来が近い。

スマトラ島沖大地震・津波、そして米国南部ハリケーン「カトリーナ」

も困難を極めている。貴重な救援物資をめぐって被災者同士のトラブルも

多発。しかも厳しい冬の害支援活動を続行してい

る最中だった。だが、発生源の八日にネパールの支部長のアーチャリア先生とインドネシア支部長のタンラ教授から国際電話が入った。「医療チームを出せませう」と。

九日には、パキスタン南部の都市クエッタでアフガン難民救援活動を四年間続けているAMDAプロジェクト事務所から、三人をイスラマバードに送った。十一日から日本の本部、ネパール、バンクラテシユ、インドネシア各支部からの医療チームが続々とイスラマバードに到着した。パキスタン支部は独自の

に軍と協力して最も被害の大きかった被災地に入ったが、多国籍医師団が入った被災地もイスラマバードから車で五時間の山越えを要した。バラコットとマンセラの二カ所である。バラコットでは家々が崩壊したままの無医村が小学校を提供してくれた。女性医師が喜ばれた。部族社会では女性を診察・治療できるのは女性医師だけだからである。

マンセラでは、パキスタン政府の要請を受け、政府系救急病院で緊急手術に従事しているハムタード医科大学チームに合

平和賞資金が救援支える



女性患者を診察するサルダナ・ワルダック医師14日、パキスタン・バラコット（AMDA提供）

ら独立を果たそうと混乱していた一九四五年にカラチに渡り、イスラム圏の伝統医学であるユナニ医学を応用して献身的に活動した。

だが、二〇〇〇年十月、数人のグループに機関銃で射殺された。診療を開始する直前だった。診療所は開設当時の古いビルにあり、暗殺される日まで診察を続けていた。暗殺者は不明のままだが、汎イスラム運動に深くかかわり過ぎたためだった。政府への抗議のゼネストが、一週間にわたってカラチ全市で行われた。

接種をするまで停戦をといたAMDA提唱の「アフガン医療和平」で、AMDAを紛争当事者であるタリバン政府と北部同盟に紹介してくれた。双方に信頼されていた。パキスタンがインドか

私人が国際社会にかわって三十五年、AMDAを設立して二十一年。「苦勞を共にするパートナーシップ」を象徴するのが多国籍医師団である。スマトラ島沖大地震・津波、そして今回のパキスタン北部地震の被災者救援活動。沖縄平和賞の副賞としていただいた一千万円がまたも貴重な初動資金となり、躊躇なく大規模な救援活動を開始できた。

開始が一日でも早ければ、それだけ多くの人々の命が救える。沖縄平和賞に、あらためて深く感謝している。

AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長

この連載は毎月第四日曜日に掲載します。

彼は「すべてのアフガニスタンの子どもが予防

方に信頼されていた。

パキスタンがインドか